

協働のまちづくり説明会記録(花里地区)

《開 会》

《説明者等紹介・日程説明》

《市民活動推進課説明》

①地域ですすめるまちづくりについて

(協働のまちづくりについて、自主運営組織のあり方について)

《①に対するの質疑応答》

- ・ 合併から10年間で合併特例が無くなる支所地域のためにこの協働のまちづくりの組織が必要で、高山地域は関係ないと聞いたことがあるがどうか。

地域をよりよくするための前提として、地域活動がもっと活性化し地域の絆が深まることが重要であると考えている。市町村合併10年目で地域振興特別予算が終了するため、支所地域では様々な議論がなされていることは事実である。しかし、平成27年度から合併特例が無くなることは、支所地域に限らず市全体にも影響がある。地域活動をより持続可能なものにするためには、この協働のまちづくりは必要不可欠なものであるとともに、平成27年度はその通過点だということをご理解いただきたい。協働のまちづくりに取り組む組織については、合併特例が無くなることや少子高齢化の問題など総合的にみた結果、みんなで新しい仕組みづくりを考えてみてはどうかという提案である。平成17年に策定した総合計画の中でも4つの基本目標の実現に向け、市民と行政の協働により各種施策を推進するとしている。

- ・ 花里地区がモデルになった基準はどういったことで選定されたのか。

基準があったというわけではない。花里地区では若い人たちが中心となり新しい地域活動の仕組みをつくりたいという思いがあった。また、花里地区を語る会という他に類をみない取り組みがあったので、市として意欲がある地域として選定させていただいた。

- ・ 私の町内会は大きなアパートが2つあるが、町内会に加入する人が少なく、老人世帯ばかりなので、新しい組織をつくっても大変である。

同じ問題は市内の中心市街地にもある。市では今回、一定の基準でモデル地区を選定したわけではなく、地域活動の現状を踏まえモデル地区とさせていただいた。

- ・ 現在でも町内会にあれもこれもやってくれと言われているのに、更にモデル地区になると負担が増えて大変である。

普段から地域の方々に、ご協力いただいていることについては感謝申し上げる。この協働のまちづくりについては、市から依頼して何かをやってもらうというのではなく、地域のみなさんの考えや議論がベースとなってくるもので、市はモデル地区だからといっていろいろ指図するものではない。

- ・ 町内会で活動するうえで一番問題になってきたのが、少子高齢化により地域で活動する人が少なくなってきたことである。今は知恵や工夫を出さないと昔みたいな活発な町内会にはならないし、どの町内会もそのような状況に陥っている。それをなんとかしたいという思いや社教の方からの誘いで、今年度からガヤガヤ会議という組織に町内会長経験者ということで参加している。2、3年前からもこの協働のまちづくりについて聞いているが、もどかしさを感じてきた。資料の図2で自主運営組織が提案されているが、このようにこの地区で組織を作りなさいということなのか、市で具体的に組織化する手立てを考えているのか。

図2は一つの例としての考え方を提示している。市としてはまず、ゆるやかに各種団体がつながる場を作ることが必要と考えている。まさに今お話しにあったガヤガヤ会議がベースになるものだと考える。地域の世代構成や社会情勢が変わっているのに組織だけが今までどおりだと無理がくる。そういった意味では組織のあり方も考えていかなければならない。

市としては、これまで理念や考え方を示してきた。そうした話を重ねてきて、ようやく具体的な話ができるようになってきたことをご理解いただきたい。運営組織については町内会や地区社教が一つのベースになるので、準備会を立ち上げ、そこで議論を重ねていく中で、ここに示している図2のような組織に移行していくことを考えている。

- ・ 自主運営組織を立ち上げていくには二通りの手法があると思う。一つは恒常的な団体の代表者が集まって単位組織から上の組織にあげる方法で、これはものすごく時間がかかるし、いろんな利害もかかわってくるほか、大変なエネルギーも必要となる。もう一つは、事業の度に実行委員会を立ち上げていく方法である。その事業に関わっている組織ばかりではなく他の団体にも呼び掛けて拡大した形で行事を行うという行事単位での運営組織という方法である。その方法が実際の行動に移りやすいしエネルギーもかからないのではないか。

今まで各地区で説明した中でも、屋上屋をつくるのではないかという意見があった。市の説明不足もあったかもしれないが、今ほど提案があったように、どういう形がいいのかというのは、地域ごとで違うと思う。コアの部分では統一することはあるが、20地区全部がまったく同じ組織とはならないと考えている。地域ごとで抱えている課題や、それまでの歴史・文化が違うので、どういう組織がいいか話し合っただくことが重要である。冒頭に話したが、市からこうしなさい、こうあるべきだと押し付ける事はしない。花里地区が活動しやすい仕組みを考えていくことが必要である。

- ・モデル地区とそうではない他の地区とはどこが違うのか。この協働のまちづくりは同時発車しないと間に合わない。今からでは遅いと感じる。モデル地区に対し他の地区に先駆けて財政支援があるのかということも聞きたい。また、新しい自主運営組織をつくるにあたって、既存の組織を有機的、組織的、系統的につなげていけばという説明があったが、この地区は高齢者も多く、高齢だからといって除外するのではなく、まだ働ける高齢者にもこういった組織に参加していただかないとやっていけない。そういったことも教えていただきたい。

市としても情報を収集し、提供できるものは提供しながら、地域と一緒に考えていかなければならないと思っている。モデル地区の取り組みに対しての支援としては、どの地区よりもいち早く情報を提供したり、資料の作成や事務的な支援などいろいろなサポートをしていく。また、取り組みが遅いのではないかということについては、協働のまちづくりは時間がかかるものであり、成長していくものと考えているので、いろいろと試行錯誤しながら長い目で見ると必要であると思う。全国にもいろいろな事例があるが、どこも時間をかけて取り組んでいる。

- ・花里地区の自立や住み続けていきたいまちづくりにしていくためには、ある程度ここに住んでいる人たちの意識も大事で、動いていくことも大事である。そのためにはどういった組織が必要なのかではなく、まずはこのことに関心を持ちいろいろなことを考えていく人をどんどん増やしていくことである。そういった人たちといろいろなところで話し合えば、意見がでてくるし、花里の将来が見えてくる。そういった形が一番良いのではないかと思うし、最終的によい地区ができるのではないかと感じている。そこでモデル地区ということでは他よりも優先的に情報とか協力があるということなので、それを活用しながら、いっしょにやっていけばよいのであって、モデル地区だからちゃんとしたものを早くつくらなければいけないと思う必要はなく、他の地域より有利な点を利用して、花里地区をよりよいものにしていけばよいと思う。

市が説明したいところを話していただきありがたい。行政は丸投げをするつもりはない。行政がやるべきこと、地域で行った方が効果の上がるもの、行政と地域が協働で行った方がよいものなど、仕分けをしていく必要があると考えている。

- ・人口構成をみると高齢者が増え、それだけやれる人がいればよいが中身をみると世帯数も少なくやれる人が少ない。

同じ花里地区の中をみても町内会により抱えている課題はそれぞれ違っていると思う。その課題をどうしたら解決できるのか考えていただき、みんなでどうすれば住みよい地域にできるのかということを議論していくことを提案している。モデル地区だから負担が多くなるとは考えていないし、逆にモデル地区であるので、市も積極的に関わりながら皆さんとともに取り組みを進めていきたい。

《企画課説明》

- ②行政ですすめるまちづくりについて
(市民参加条例(仮称)の制定に向けて)

《②に対するの質疑応答》

- ・特に質疑なし

《説明全体に対するの質疑応答・意見交換》

- ・市長はまちづくりに対してどういったイメージを持っているのか。この部分について市民から意見を聞きたいというのであれば、私たちもそこを踏まえて考えていくが、市長の口癖みたいなものを教えていただきたい。

合併当初、全市の一体感ということを前市長は言っていたが、高山地域と支所地域の格差的なものを無くし、皆等しく行政サービスを受けるのが当然であるという思いがあって全市の一体感と言ってきたのだと思う。合併して9年目に入り、まだいろいろな課題はあるものの、同じようなレベルに近づいてきたのではないかと思っている。そのうえで現市長は、地域の特色や地域性を大事にしていこうと話している。先ほどの全市の一体感と相反しているのではなく、次元が違う話でそれぞれに住んでいる人の考え方や伝統行事等を大事にして、なおかつ皆様方の自主性を重んじて進めていきたいということだと思っている

口癖というのは、あまり耳にしたことはないが、市長のお約束にもあるように、市民が主役ということの基本に何ができるかということを中心に考えているものと感じている。10月から市長と語る会があるので、ぜひご参加いただき、直接市長と意見交換いただきたい。

- ・高山市は住みやすいまちで、気候なども良いし、災害も少ない。安全で安心なまちだと思う。こちらに転勤で来た人が高山を気に入ったので家を立てて住んだという事も聞いている。観光客もきれいなまちだと言っているし、ゴミが落ちていれば自主的にゴミを拾うなど、住んでいる市民のレベルも高い。本当にいいまちに住ませていただいてありがたい。更に住みよいまちづくりにしていくためには、どこに力を入れていくべきかを具体的に示してほしい。この資料では分かりにくい。

今後は、分かりやすい資料作成や説明に心がけたい。今のお話のように立派な公共施設があるから住みやすいというのではなく、市民一人一人が意識を持ってゴミを拾うなど、小さなことの積み重ねが高山市を訪れた人や転勤で来た人の好印象を生んでいる。住んでいる人の一人一人の思いが住みやすいまちをつくっているものであり、これからもこれを継続していくことが大事である。引き続き、協働のまちづくりの中でそうした思いを育てていきたいと思っている。

- ・最初に説明のあったグラフを見て、限界集落は高山地域においても将来出てくると感

じた。小学校の児童数が減るたびにそう思う。このグラフを見て、市はどう考えているのか。協働のまちづくりにシナリオ、脚本がないと配役は動けない。市の指針を示してほしい。

少子高齢化は全国的な問題である。これを急に抑制したり回復させることは、現実を見据えると困難なことである。まちづくりから話は変わるが、市においても企業誘致や大学を卒業した人を地元企業に就職させるなどの取り組みは行っているが、なかなか抜本的な解決には至っていない。市が示しているのは、協働のまちづくりのあらすじだけなのかもしれないが、花里地区はモデル地区なので、担当の職員を配置し、いろいろな場で話をしていきたいと考えている。まずは様々な地域の課題を出していただいてからはじまっていくのだと考えている。皆さんにゼロから考えてほしいと言うのではなく、具体的な事例を提示し、いっしょに話し合いをさせていただきたいと思っている。協働のまちづくりは、少子高齢化の一つの対策であり、地域の課題を皆さんが共有し協力関係をつくりながら解決していくことだと考えている。

- ・ 2～3年前からこの協働のまちづくりの話を聞いてきた。花里地区では地区のあり方を考える場としてガヤガヤ会議を立ち上げた。任意の集まりで役に関わらず関心のある人が集まって話しあっている。この地区が一步踏み出すためにも是非今日お集まりの皆さんにも加わっていただき、みんなで考えていければこの地区も変わって来るのかなと感じる。
- ・ この自主運営組織というものは、将来必ずつくらなければならないのか。
これは法律で決まったものではないし義務でもない。各地区の組織として基本的な機能は同じ部分があるが、地域ごとに抱えている課題が違うので、すべてが同じ形態の組織にはならないと思っている。基本的にはこのような仕組みづくりを各地区で進めていきたい。
- ・ 最初の説明のグラフで町内会の世帯数はどれを言っているのか。町内会加入が低いと言われても、納得いかない。この地区は親子3世代の世帯もあるし、施設に入っている人もいる。花里地区は加入率が悪いと以前調べたことがあった。いま言ったことや公務員等単身赴任者で入っていない人もいた。その状況も加味していただきたい。
町内会加入率は分母の数字に何をあてはめるかで大きく違ってくる。直近の国勢調査（H22）の世帯数を分母とすると高山地区の町内会加入率は約78%になる。住民基本台帳による世帯数を分母とした場合と約10ポイントの差が出てくる。これからの資料はもう少し精査して出すようにしたい。
- ・ 問題は数字じゃないと思っている。加入している町内会員が町内会に何を期待しているのか、これから取り組む協働のまちづくりにどう参加し協力していくかである。

《閉 会》